

10月8日 曼珠沙華

中庭にひっそりと曼珠沙華が咲いている。細い薄緑色の茎の上に複雑な赤い花弁を広げている。私はこの花になぜだか「宇宙」を感じる。燃えさかる赤い花の周りに、点々とおしべ、めしべが散らばる。太陽を中心に星々が取り巻く姿にどことなく似てはいないか。

曼珠沙華とはサンスクリット語で赤い花という意味。また、文字通り彼岸の頃に咲くために彼岸花とも呼ばれている。

通常、田んぼの畦などに群生するので、おそらく人為的に植えられたのだろう。根は球状で毒を持つ。しかし、デンプンが多く、水にさらして無毒化し非常食として重宝されたとも。「てくざさり」という別名は、むやみに摘むことを戒めるためだが、それは根の毒性よりもむしろ、非常食として大切に育てていたからである。

今は観賞用に「リコリス」として売られているが、貧しい生活に根付いてきた「花の名」の方が、魅力があるように思う。

